

大村智講演録

良き人生は日々の丹精にあり

講演日 二〇二二（令和三）年一月二十三日（土）

皆さん、明けましておめでとございます。

コロナ禍に見舞われながら非常に不安な日々を送っておりますけれども、早くこのコロナが収まって、平安な日々が過ごせるようになることを願っております。

さて、今日は大勢の致知出版関係者の皆さんに私の話を聞いていただけるといふことを、大変光栄に存じております。致知出版の社長さんの藤尾様をはじめ、致知出版関係各位に心より御礼を申し上げます。



北里柴三郎(1853-1931年)
 熊本県小国町出身。
 「近代医学の父」と呼ばれる細菌学者。破傷風の血清療法を確立し、ペスト菌を発見したことでも知られる。

(読売新聞)

話題

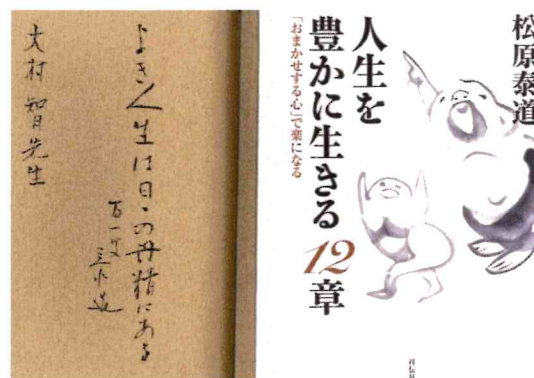
1. 私の研究と社会貢献
 2. 畏敬する先輩たち
 3. 私の日常
- 結語

4

3

するからには、中学校の教科書などにすこし載っていたこともあり、北里先生のことを学びながら、また自分の研究もしたということでもあります。

4 そこで、北里先生の話をしきりに聞かされてきましたが、四年後にはこのように千円札に北里先生の肖像画が載ることになりました。北里先生は、皆さんご存じの熊本県小国町の出身ですけれども、近代医学の父と呼ばれる細菌学者で、破傷風の血清療法を確立し、ペスト菌を発見したことでも知られる方です。そこで、いろいろたくさん研究業績の中から、少しだけ先生の研究のお話をさせていただきますが、この破傷風の血清療法の話させていただきます。



2 松原泰道『人生を豊かに生きる12章』

良き人生は日々の丹精にあり

大村 智

北里大学特別荣誉教授
 日本学士院会員
 女子美術大学名誉理事長

1

1、2 さて、私は、本日はこのようなタイトルで話をさせていただきますが、これは実は、松原泰道さんという、南無の会の会長を務められた禅師が『人生を豊かに生きる12章』と、こういう本を上梓じょうしされました。そのときに、私にこの本を一冊プレゼントしていただきましたが、その表紙を開いてみますと、そこにあつた言葉が「よき人生は日々の丹精にある 百一歳泰道」。これを今日は、私の話を聞いていただく皆さんとシェアしようということで、このタイトルを付けた話になります。

3 今日のお話を大きく分けますと、この三つになります。

最初に、私の研究と社会貢献という話をさせていただきます。私は山梨大学卒業後、五年間、東京都立の夜間の高校の教員を務めました。そして母校にまた帰って、二年間、発酵学の研究をして、八年目に北里研究所に入所することができました。そこから私の抗生物質に関する研究が始まっていくのであります。もちろん、こういった研究をすることは大事だと思っておりますけれども、この北里柴三郎先生がつくった研究所で仕事を



5 破傷風の症状

5 破傷風菌というのは、土の中にいる微生物ですけれども、傷口から、この菌が入ってきて、そしてこのような症状を起します。中枢神経がダメージを受けて、このように呼吸もできなくなってしまうということもあるわけです。この病気のもととは微生物によるということは、もう既に分かっていたのですが、その微生物を分離することができた人が、一人もいなかった。それで、北里先生はドイツでロベルト・コッホの下で研究をしているうちに、先生の技量が認められて、コッホ先生から、この破傷風菌の純粹培養の研究をテーマとして与えられるわけです。

6 そして、まずこの菌を分離します。成功しました。ところが、ここで発見しただけで北里先生は終わらないんですね。次々と研究を進めていきますが、まず、先ほどのような破傷風の症状を出すのは、この菌そのものじゃなくて、この菌が作り出す毒素によるものであるということを見いだすわけですね。



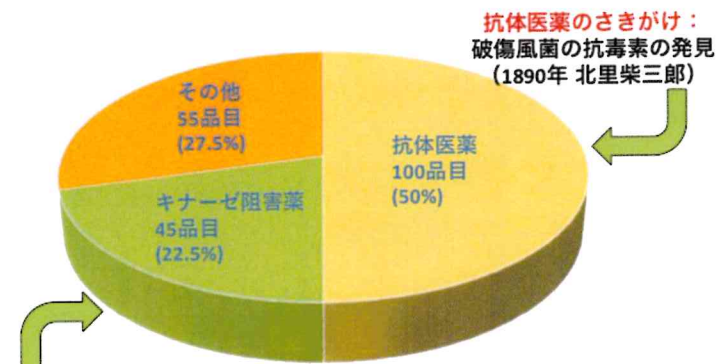
6 破傷風菌

そして、しばらくして今度は、その毒素を実験動物に注射します。それは当然、破傷風を起こして死ぬんですが、その注射する量を少しずつ増やしていくと、かなりの量をやっても破傷風にならないということを、先生は見いだすんです。この先生が考えたのは、これは体の中に、この毒素を打ち消す何かが作られているんだということです。それこそが名付けて抗毒素といえます。それで、抗毒素というのは現代流に言うと抗体なんですよ。抗体が体の中に産生されて、そしてその毒素を中和してしまう。だから、別名として中和抗体なんていう呼び方をされることもあります。

そこで、さらに先生は研究を進めて、今度は大動物に破傷風菌の毒素を注入して、例えば馬の血清の中に、この抗毒素をたくさん作り出させるわけです。そして馬の血液から血清の部分を取ってきて、それを注射すると破傷風にかからなくなる、あるいは破傷風を治すことができることを発見しました。これが破傷風の血清療法というわけです。ここまで先生は研究されたわけです。

そして、それをベーリングというドイツの研究者と一緒に、今度はジフテリアに応用するんです。ジフテリアに応用して成功するわけですけれども、第一回のノーベル賞というのが一九〇一年から始まるんですね。そのときの第一回目の医学賞を取ったのがベーリングなんです。しかもその研究論文も北里先生と一緒に書いて発表しているんですよ。本来

主要海外製薬企業パイプライン (2019年年初) 200品目



抗体医薬のさきがけ：
破傷風菌の抗毒素の発見
(1890年 北里柴三郎)

分子標的医薬のさきがけ：
Staurosporineの発見
(1977年 大村智ら、1986年 T. Tamaokiら)

日経バイオテック 2019.4.8

7

なら、北里先生が受賞されるべきと思います。そんなこともあって、今でしたら三人まで共同研究でもらえるんですけど、その当時は一人だったと思うんですね。そんなことで北里先生はノーベル賞を受賞することとはなかったんです。

7 その抗体の発見はいかに大事かということ、一つだけ例を挙げて説明しますけれども、今、大手の製薬会社が開発する薬の半分は抗体薬なんです。その抗体こそが北里先生の発見したものですね。そんなことで北里研究所も、そういった現代の医学の研究においても、基礎的な分野でかなり貢献しているということをお分かりいただけるかと思います。そして、北里先生のことを勉強するうちに、こんな文章に出会ったわけですけども、北里先生というのは、そういう学問的な研究だけじゃなくて、啓蒙活動も盛んにやられました。

北里柴三郎の学問研究の目的

全て学問研究の目的は学者の単一な道楽ではない。研究の結果はなるべく適切に実地に応用して国利民福を増進することにある。

結核予防協会演説 (一九一七)



北里柴三郎 (1853~1931)
破傷風菌の純粋培養に成功しその治療法を開発、ペスト菌を発見するなど感染症医学の発展に貢献し、「日本の細菌学の父」として知られている。北里研究所、慶應義塾大学医学部、日本医師会などを創立。

8

8 そして特に、その当時、日本の場合は一番死亡が多かったのは結核なんですね。その結核の予防協会というのをつくられて、先生が会長をされて、そのときの講演の中でなんですが、「全て学問研究の目的は学者の単一な道楽ではない。研究の結果はなるべく適切に実地に応用して国利民福を増進することにある」と先生はこう言っています。これを私は、北里先生のまさに実学の精神を表わしている言葉であるというふうに思うのです。そこで、北里先生が、そういう実学の精神、実学の理念を持たれるようになったルーツを知りたくまりました。

なぜ北里先生はそういうことを考えるようになったんだろうなということ調べてなくなつて調べました。そうしたら行き着いたところが横井小楠しょうなんであります。

横井小楠

一八六九年、志半ばにして暗殺された幕末の思想家、横井小楠その実学思想は政治、経済、教育、外交など多岐にわたり、「公共」の理念を基軸として新しい国家・社会像を打ち立てた。松平春嶽の要請で、政治顧問として福井藩の藩政改革を手がけた。私塾からは多くの門弟を輩出し、勝海舟、吉田松陰、坂本龍馬ら維新の立役者達にも多大な影響を与えた。



(1809~1869)

源了圓
日本学士院会員



10 左 源了圓
日本学士院会員
近代日本思想史
横井小楠の研究

9

9 横井小楠はどういった人物であったかと言いますと、これは源了圓先生が簡略文に書いてありますが、「一八六九年、志半ばにして暗殺された幕末の思想家、横井小楠その実学思想は、政治、経済、教育、外交など多岐にわたり、「公共」の理念を基軸として、新しい国家・社会像を打ち立てた。松平春嶽の要請で、政治顧問として福井藩の藩政改革を手がけた。私塾からは多くの門弟を輩出し、勝海舟、吉田松陰、坂本龍馬ら維新の立役者達にも多大な影響を与えた」と。こういうふうにとまとめられます。

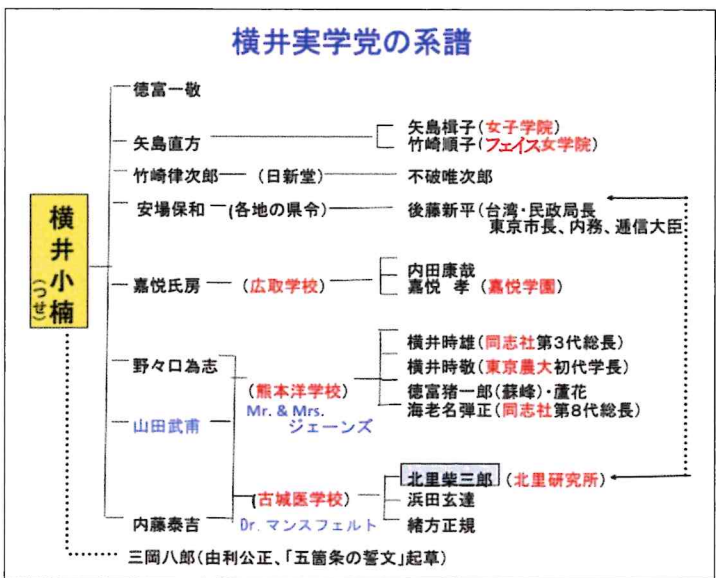
10 この源了圓先生とは、私は幸運なことに、日本学士院の会員に、同じ年に一緒になりました。そんなご縁もあって、先生から横井小楠の話のいろいろ聞くことができました。

11 それで作った表がこれです。この横井小楠は、先ほど多くの門弟を育てたと言っているわけですが、その中にはそうそうたる人物がおります。ある人は研究者であり、ある人は教育者であり、実業家でありというふう活躍されるんですけども、

私が注目するのは、その次のジェネレーションです。これがまた素晴らしいです。

例えば、女性でも女子学院をつくったり、フェリス女学院をつくったりというようにも現れていますし、それから嘉悦氏房の娘、嘉悦孝が嘉悦学園、今で言う嘉悦大学をつくっていますね。私の亡くなった家内が実はこの卒業生でもあったということなんですけれども、こういった小楠の門弟たちが学校をつくります。古城医学校、熊本洋学校をつくるんです。

古城医学校で学んだのは北里柴三郎先生ですけども、実はドクター・マンسفエルトに顕微鏡を見せられて、そして顕微鏡下の微生物を見て北里先生は、初めは軍人になろうとしていたところ、ところが医者になろうということになって、医学の道に入るわけです。ところが、マンسفエルトが途中でオランダに帰ってしまうことになった。そのときにマンسفエルトは、「さらに君は勉強するために東京医学校（今の東京大学の医学部の前身）というのがある。そこへ行って勉強しなさい



11

い」と言われて上京して行くんですが、そのときにいろいろと北里先生を支えてくれたのが、横井小楠の門弟の山田武甫です。

一方、この洋学校のほうは、このジェーンズというアメリカから牧師さんと呼んできて教育してもらうんですけれども、いかんせんキリスト教を基調とする講義だとか教育ですから、地域の、熊本の人たちが、これでは自分の息子や娘たちがみんなキリスト教徒になってしまうのではと、こんな学校は要らないというようなことになりました。廃止になります。そうしますと、そこに通っていた生徒たちは主に同志社へ行きました。新島襄の同志社へ行くんです。そして、例えば横井時雄、これは横井小楠の長男ですけれども、同志社に行つて勉強して第三代同志社の総長にまでなります。それから、またこの海老名弾正という人、これは、今度は小楠の長女をめぐって、そしてやがて第八代の総長にもなった。こういう孫弟子の中にも優れた方々が生まれているわけです。

特に、これは横井時敬ときよしといえますかね、東京農大の初代の学長にもなっている。この東京農大のことを少し勉強してみましたら、まさにこの大学こそスクールモットーは実学なんです。実学の精神を打ち出している学校なんです。まず、横井小楠の思想が流れてきているということもお分かりいただけると思います。そしてもう一つ、ここに安場保和という、この人は各地の県令など、今で言えば知事さんをやった方ですけれども、その学僕、

書生として仕えたのは後藤新平です。この後藤新平というのは、台湾の民政局長になったり、それから東京市の市長になったり、内務大臣、それから逓信大臣まで務めた方ですけれども、ちょうど北里先生がロベルト・コッホのところに行つているときに、この後藤新平もコッホのところに来て一緒に仕事もしたんです。始めは仲もよくなかつたらしいですが、やがては二人が非常に名コンビで、いろいろ、特に医療行政といわれるものですが、その当時の医療行政のほとんどが伝染病対策なんですけれども、これを二人でやったという話もあります。

金を残す者は下

仕事を残す者は中

人を残す者が上

後藤新平（一八五七～一九二九）

政治家、満鉄総裁・通相・

内相・外相・東京市長

震災復興や対ソ外交に努力

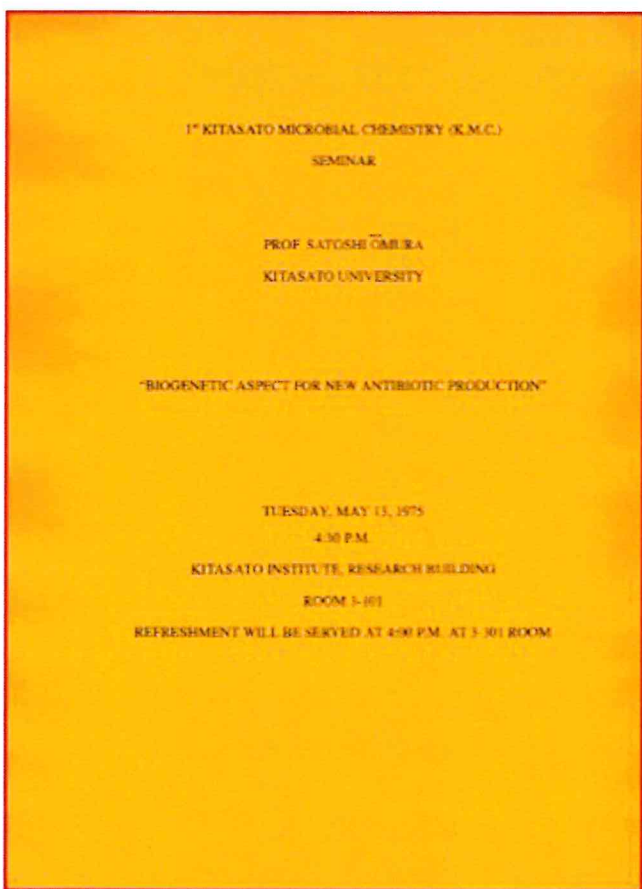
12

12 こういうことで、北里先生は、まさに小楠のこの実学の思想を受け継いでできていると、こういうことであります。それで、今の後藤新平が言っている言葉に、こういう言葉があります。「金を残す者は下 仕事を残す者は中 人を残す者が上」と。私は実は自分が北里研究所へ来て、研究室を持つてしばらくしてからこの言葉に出会うわけですけれども、やっぱり自分のやっていることは間違いなかったなと思つたのは、この、人を残すことが上。この上を目指していたんだということです。

どうということかという、先ほど言いましたように、私が研究所に遅れて入ってきて、七年目に大村研究室というものをつくってくれたんです。そのときに配属された人たちは、高等学校を卒業して専門学校の夜間部で勉強している二人、それから学卒が一人、それから修士の称号を持っているのが二人でした。これで研究をするように言い付かったのです。これではやっぱり世界的な研究をするには、まだ私も含めてそうだと思いますが力不足です。よし、この人たちに全員学位を取らせるように、むしろ先にそちらをやるうと考えました。私はまだ三十代の後半でしたけれども、教授になってまだ時間があるから、人を育てておいて、そういう人たちと一緒にいい研究をしてみようと、こういうことになったのです。そこでいろいろなことをやりました。若い人たちが勉強をして、力を付けるためにいろいろなことを考えました。

13 その中の一つが、この Kitasato Microbial Chemistry Seminar というセミナーであります。そして、オレンジ色の紙でポスターを作りました。こんな色を使った掲示を出したなんていうのは私が最初だと思えます。その当時は、そんなことを考えた人はいないと思えます。なぜこの色を使うかという、非常に目立つのです。どんなところへ行っても非常に目立ちました。背景がどんな色でもよく目立っているのです、それを使った訳です。

それから、もう一つは、全て最初からこの掲示には英語で書いています。英語を使っています。これはなぜかという、これは私が大学の教授になったときに考えたことですが、将来これが続けていってよかったなという何かを残そうというときに考えたのが、このセミナーなんです。外国のハイレベルの研究者を呼んできて、それで講演してもらおうというところもありましたから、最初から英語にしたということもありますけれども、こうして、みんなでもって勉強するということをやりました。また、居ながらにして外国人と会うこ



13

第1回 Kitasato Microbial Chemistry (K.M.C.) Seminar のポスター

ソフィア会会員

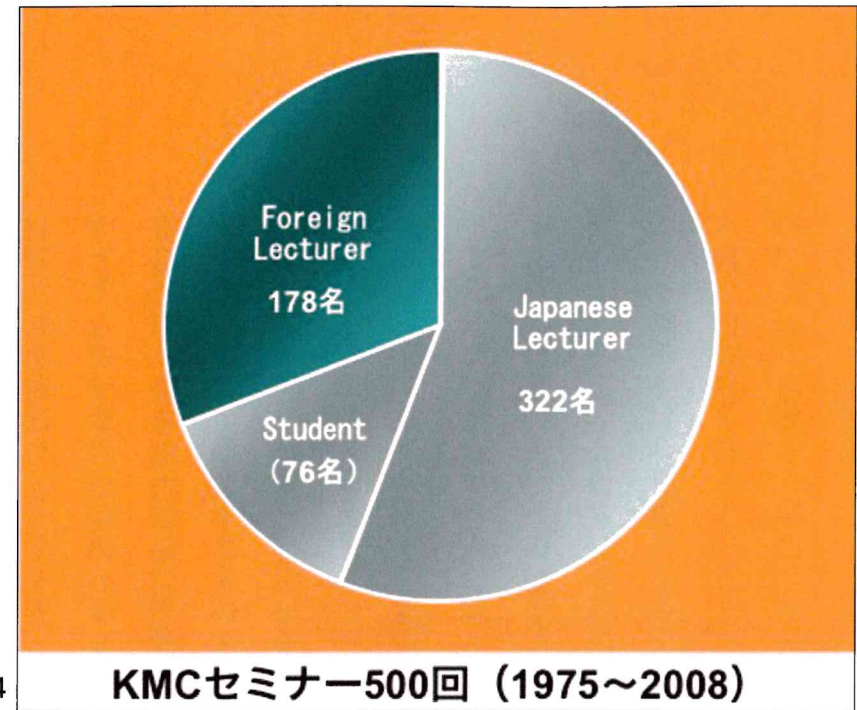
青山 博	宇井 英明	金 容必	高野 大介	西田 博之	松尾 淳一
赤間 浩之	宇津野 秀雄	久野 文義	高橋 雅人	西原 達郎	松田 大介
阿部 章夫	内田 龍児	熊谷 英敏	高橋 洋子	野口 吉彦	松原 肇
荒井 雅吉	江田 茂	小嶋 康裕	高松 智	野村 節三	松本 厚子
粟谷 寿一	榎本 有希子	小林 豊	田爪 正気	橋詰 博一	松本 司
飯島 肇	大岩 留意子	小宮山寛機	田中 克己	花木 秀明	宮野 勝治
五十嵐 一暎	大久保 修司	小山 信裕	田中 晴雄	萩田 一成	村田 容常
池田 のり子	大下 純	佐藤 裕	田中 芳武	羽田 勝二	門馬 壮一
池田 治生	大城 太一	佐野 浩	田中 典子	早岡 辰巳	八木沢 尚正
池田 穂高	太田 紀夫	塩見 和朗	田島 智史	林 正彦	山口 裕一
石黒 繁夫	大野 敏宇	志倉 教保	土屋 一夫	半田 政己	山崎 由起子
井手口哲也	小谷 勝	島村 寛章	戸口 招聘	広瀬 友靖	山田 八重子
石橋 正己	乙黒 一彦	柴田 潔	供田 洋	福田 隆志	山田 陽城
石山 亜紀	小島 りか	清水 昌寿	中川 彰	福本 敦	山本 剛
伊藤 達也	海淵 寛	白坂 哲彦	中江 正隆	船山 信次	吉田 君成
稲橋 佑起	柿沼 志津子	白畑 辰也	中野 隼人	堀内 正	吉田 博
猪越 淳嗣	片桐 岳信	須賀 拓弥	長井 賢一郎	前橋 一紀	Ann Jakubowski
今井 美光	川北 一人	菅原 章公	長光 亨	松丸 尊紀	Pang Chang-Hong
今村 信孝	喜多尾 千秋	鈴木 英明	生田目 一寿	三浦 広美	Priska Spiri-中川
岩井 謙	君嶋 葵	砂塚 敏明	成田 和穂	増間 碌郎	以上 120名
岩月 正人	金 理瑛	高橋 淳	錦織 隆昭	松崎 桂一	(2017年4月現在)

赤文字は教授就任者

15

こういうセミナーを聴きながら、さらに研究をしたということなんです。

15 そして、私のこの部屋を出た人たちで、ドクターを取った人が一二〇人ぐらいいます。そして、その中で教授になった人が三三人います。こういう研究室が、何というんですか、国立の大きな大学ではこういう教授もいたかもしれないけれども、私立の大学でこれだけの人を育てることができたというのは、やはり最初からそういう考えで研究をやってきたからだと思います。

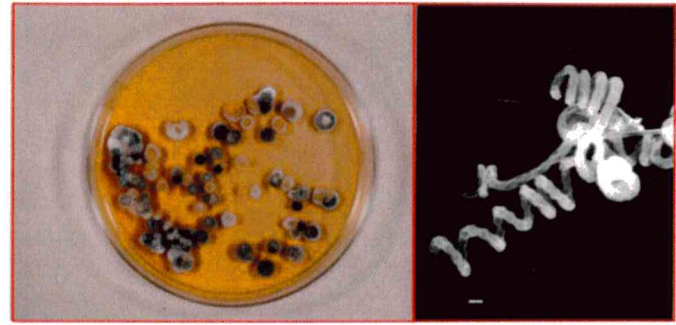


14

とによって、例えば海外に行けないまでも外国人と接触することで、そういう海外の様子を身に付けることもできると考えたのです。こんなふうなこともあったのであります。

14 そして、そうやって多くの研究者が育ちました。五百回終わったところで、今は私の後継者たちに譲って、このセミナーはいまだに続いておられます。だけれども、五百回のおきの内訳を見ますと、まず外国人が一七八名、それから日本人の講演者が三三二人、それからドクターコースの学生なんかは勉強のために、こういうことをやるわけです。それで、三分の一が海外から呼んだ、しかもその中にはノーベル賞学者も何人も入っていました。そういうレベルのセミナーをやることができました。それで、みんな、この若い人たちも研究テーマを持って研究しているんですけども、

エバーメクチンの生産菌



Streptomyces avermectinius (S. avermitilis)

(bar = 1 μm)

17

組織にて
研究する者達が
成長する時、
その組織はさらに
多くの成果をあげる。

哲史

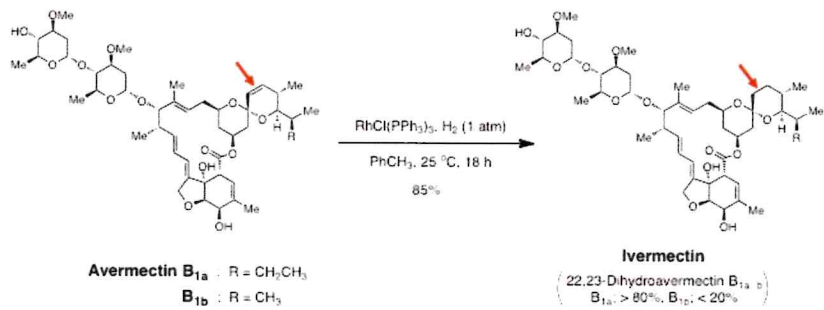
16

16 それで、私が、これは自分で体験したことです。これは私の言葉です。「哲史」というのはペンネーム「さとし」と読むんですけれども、「組織にて研究する者たちが成長するとき、その組織はさらに多くの成果を上げる」ということなんです。既に出来上がった人間を連れてきて、それで研究するよりも、むしろこれから勉強しようという向学心に燃えている人たちを集めてきて、そういう人たちと一緒に仕事をすることによって、予想外の研究ができると思っております。これが私の体験したことなんです。そして、実際そういうことによって、いろいろなことができたと思っております。

17 私達の研究の中で、最もよく知られている化合物、エバーメクチンの話をこれからいたします。ここに見えるのは、こちらが生産菌のコロニー、こちらが胞子の電子顕微鏡の写真です。そして、エバーメクチンをつくる菌はこれしかないのです。私どもが、伊東市川奈の土壌からこのキャンパスで分離したものです。

18 そして、エバーメクチンから今度はさらに研究して、これはMSD(米国メルク)という企業との共同研究ですが、この矢印のある、この二重結合を一重にした化合物と、ただそれだけの変換だけですけれど、これで毒性は抑えられ、活性が上がるというふうな変化があります。それで、これをイベルメクチンと名付けました。これはどういう薬かというと、塗り薬でもいい、飲んでもいい、注射もできるという薬なんです。そんなことで、これが広く使われるようになりました。

エバーメクチンからイベルメクチンへ



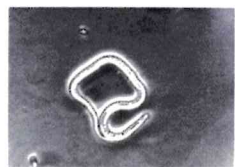
Endectocide

R. Burg et al., Antimicrob. Agents Chemother.,
15, 361 (1979)
G. Albers-Schönberg, J. Am. Chem. Soc., 103,
4216 (1981)

J. C. Chabala et al., J. Med. Chem.,
23, 1134 (1980)

18

オンコセルカ症を引き起こす線虫の幼虫と媒介するブユ



Onchocerca volvulus (microfilaria, 290 μm)



Simulium damnosum

21

うということなんです。明の原因になる、皮膚に移って死滅するとかゆみをおこす。それが体の中を回っていったら、先ほどのように目に入ると、失明の原因になる、皮膚に移って死滅するとかゆみをおこす。こ

オンコセルカ症(2)



Onchocercal skin disease



'Leopard' skin on legs

20

して、日本でも糞線虫症、疥癬の特効薬としても適用になっていきます。そして最近特に抗ウイルス活性が見いだされ、特に今日はこの辺りの話もしてみたいと思います。

20、21 まず、これがオンコセルカ症で、目が見えなくなりま

イベルメクチン (Ivermectin) 概要

動物用医薬 (Animal Health)

- 1) 画期的な抗寄生虫薬
- 2) 1981年発売3年後から20年余世界売り上げNo. 1

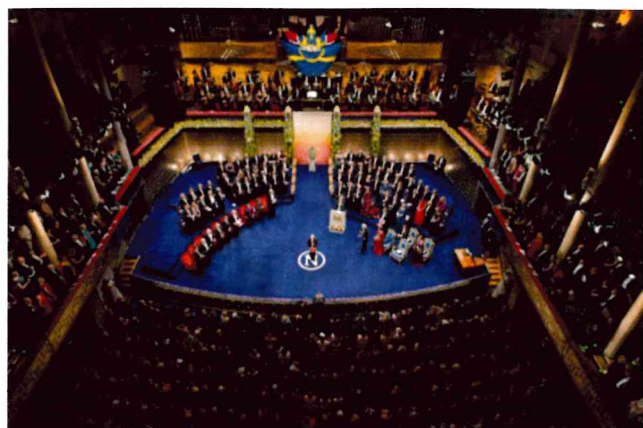
人用医薬 (Human Health)

- 1) 1987年登録:安全かつ効果の優れた抗寄生虫薬
- 2) オンコセルカ症撲滅に必要とするMectizanを無償供与する (1987年～、メルク社、北里研究所)
- 3) 2000年から無償供与はリンパ系フィリリア症にも適用
- 4) 糞線虫症、疥癬の特効薬として適用 (市販品)
- 5) 各種“顧みられない熱帯病”(NTDs) およびそれらのベクター昆虫にも有効
- 6) 抗がん・抗ウイルス活性が見出される

19

19 それで、まず一九八一年にこれが動物薬として発売になります。そうしますと、何とそれから二、三年したら、今度は世界一になりました、二十年余り売り上げ世界一を続けていくんですね。そして、世界中の家畜、世界中のペットがこの薬を飲まされてきました。恐らく犬を飼っておられる方は、この薬を犬に与えていると思います。それから、この動物薬としての売り上げで、最初からの約束どおりメルク社から私も北里研究所に特許料を頂くことができました。それで、さらに私どもの研究も進めることもできましたし、北里研究所の財政的にピンチにあったところを再建もすることができたのであります。

そして、人用に今度は六年遅れて一九八七年にこれが許可になります。これはどういこうとで許可になったかということ、オンコセルカ症という熱帯病があります。これは線虫による病気なんです。その撲滅のためにメルク社ともちろん私もそれに同意するわけです、無償で供与しようと。必要なだけ供与しますよと申し出てWHOの撲滅作戦で使われております。その製剤をメクチザンと名付けました。そして少し遅れて、今度は二〇〇〇年からリンパ系フィリリア症にも適用になるんです。これも後でちょっと写真をご覧に入れます。そ



26 ノーベル生理学・医学賞授賞式 (2015)

リンパ系フィラリア症 (Lymphatic filariasis)

・リンパ系フィラリア症は種々の蚊によって媒介される線虫、*Wuchereria bancrofti* (90%)および*Brugia malayi* (10%)によって引き起こされる

・フィラリア熱、象皮病、男性性器障害、外見の社会的恥辱の原因となる

・感染危険地域の人口 >13億人

・感染者 1億2000万人

・感染地域を持つ国 83ヶ国

(~2002年, WHO)

25

25、26 それで、二〇〇〇年から実はこの撲滅作戦がイベルメクチンと、それから、もう一つはアルベンダゾールあるいは、ジエチルカルバマジンと併用して投与するというところで成功しているのですけれども、これをやって、今は撲滅してしまった国が幾つも出てきています。それから、その当時、一億二千万人がこの病気にかかっていました。一億二千万人というところ、ちょうどこれは日本の人口に匹敵するぐらいの人たちが、この病気にかかっていたわけです。そして八三カ国にわたっていた。これら二つの熱帯病の撲滅がかなりもう近づいてくるということ

オンコセルカ症 (Onchocerciasis)

- ・“河川盲目症”とも呼ばれる
- ・ブユによって移される線虫 (*Onchocerca volvulus*) が原因となる病気
- ・ヒトにあっては成虫は数100万もの幼虫を生む。幼虫は皮膚や目に移り、ひどいかゆみを引き起こし、皮膚の損傷を来すと共に、視力の障害、失明を引き起こす。

* 感染危険地域の人口 2億50万人

* 感染者 2千90万人

* 失明患者 115万人

* 感染地域を持つ国 36ヶ国 (1987年, WHO)

22

リンパ系フィラリア症

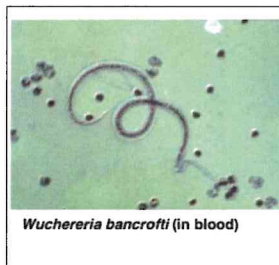


リンパ組織が障害を受け、浮腫を引き起こす。

Blocked flow in the lymph system causes swelling - eventually tissue damage and secondary infections cause permanent disfigurement



23



Wuchereria bancrofti (in blood)



Anopheles gambiae

24

22 それで、二億五十万人がそういう感染地域に住んでいたんです。そして、その当時、ちよつどの撲滅作戦を始める年なんですけれども、二〇九〇万人がもう既にこの病気にかかっていた。そして、一一五万人がもう目が見えなくなっていました。三六カ国にわたって蔓延していた。こういう病気なんですね。これで今は多くの国がこれをイベルメクチンで撲滅しております。

23、24 それからもう一つは、リンパ系フィラリア症です。これも線虫による病気ですけれども、このリンパ組織が侵されて、リンパ液がよく流れなくなると、このように浮腫を

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防および治療薬としてのイベルメクチン (FLCCC発信)

1. インフルエンザおよびCOVID-19などのウイルス増殖を阻害する(*in vitro*)
2. 多様なメカニズムにより抗炎症作用を示す
3. ウイルスの増殖を抑え、臓器の損傷を防ぐ (動物実験)
4. ウイルス感染前または初期に投与するとCOVID-19の他者への感染を防ぐ
5. COVID-19で入院した患者の早期回復を達成し、致死率を下げる
6. 広範囲の地域で使用すると地域の致死率を低下させる

P. Kory et al., Front Line COVID-19 Critical Care Alliance (FLCCC Alliance), <https://ost.ic/wx3zn/2020-12-29>

29

かということ。知り合いの皮膚科の先生が、皮膚科領域の革命だという話をしてくれました。

29 それで、これで寄生虫の話は終わって、何と今度はウイルスに効くという話が出てくるんです。これは去年の三月ごろ、オーストラリアの研究者たちが、これは細胞レベルでしたけれども、新型コロナウイルスの増殖をイベルメクチンが抑える、阻害するということを発表します。そうしますと、もうすぐにお医者さんたちの中には臨床にも使ってみる方も増えてきています。それが今やもう本当に世界中でそういう動きがありまして、この薬は国によっては、これを政府が許可して、使っているとあります。ただ、残念ながら日本はまだ今治験をやっているところ。この私どもの北里大学に治験グループがあって、医師主導の治験をやって、それで成績をまとめて申請して許可になると。こういうことですが、ただ時には、観察研究といまして、お医者さんが患者さんの要望を踏まえ、投与もできるようなっています。

疥癬 (Scabies)



Images courtesy of M. Kodama, Keio Univ. School of Medicine



Sarcoptes scabiei var. *hominis* (0.4mm)



世界中で毎年1億3千万人が感染
(Scabies mites found worldwide, affecting all socioeconomic classes)

28

で、私とこの薬と一緒に発見・開発したメルク社のキャンベル博士と共同でノーベル賞を頂いたと、こういうことであります。27、28 ところが、そのノーベル賞を頂いた対象だけじゃなくて、実は疥癬という病気にもこれが特効薬として今使われています。これが疥癬の患者さん。こういうダニによって引き起こされ、これは特に、例えば老人なんかがかかりやすいんです。これは熱帯とか温帯と関係なく、世界中にこの病気がまん延するわけですが、一億三千万人ぐらいが毎年この疥癬に感染しているといわれていますが、この薬が出るまではどうしていたかという、まずこのダニを殺すために殺虫剤を体中に塗るんです。そして、炎症を抗炎症剤のステロイドなどを塗って治していく。何回もこれを繰り返しましたが、今では、イベルメクチンを一回飲むと、ほとんど治ってしまいます。そして二週間ぐらい後に、二回目を投与すると、もう九五%以上この病気が治っています。これは皮膚科の先生から見たらどのくらい、ある意味では楽と言ったらのいいか、効率よく治療できる



27



33 ヒーリングアート



32 エントランスホール

では例を挙げます。私はまずこの埼玉県北本市にメディカルセンターを設立しました。それから、山梨県の科学・技術の振興と人材育成のために、山梨科学アカデミーを創立しました。それから、地域住民のために温泉を掘りました。38文化と経済と相伴って発展しなければ本当の地方の発展にならないわけです。それで、私はこの韮崎大村美術館39というのを設立して市に寄付しました。それから、青木繁の『海の幸』という、名画があります。これは青木繁が千葉の館山の漁村で描いた絵が、日本の洋画で最初の重要文化財ですけども、それを描いた網元のおうちなんです、それを保存しようという事業を行いました。そして、画学生がそこへ来て勉強をできるようにしてやるうというので大勢の人々と一緒にやりまして、成功しました。それで、目下やっているのは、「積み重ねの会」という会の応援です。これはまた、これらをちょっと簡単に説明いたします。

31 ちょうど今から三十何年前に、この先ほど話したエバーメ



31

日本の未来は人口の極集中を避け、
地方を活性化できるか否かにかか


私の実践躬行

- ・北里メディカルセンター設立（1989年）（埼玉県北本市）
- ・山梨科学アカデミー創立（1995年）
科学・技術の振興と人材育成
- ・武田の郷白山温泉設立（2005年）
地域住民の健康増進
- ・韮崎大村美術館設立（2007年）
- ・青木繁「海の幸」会 活動（千葉県館山市）
- ・”積み重ねの会”活動（山梨県韮崎市）

30

30 さて、また話が変わります。それで、私が実行した社会貢献という話です。今日のメインの話になりますが、日本の未来は人口の極集中を避け、地方を活性化できるか否かにかかっていると思います。これは私が三十年も前から言っており、そういうことを自分でできることを何かやっていこうと、やってきています。そのやったことを私の「実践躬行」と言っておりますが、私は言いだしたからにはやったよと、こういうことを、ここに羅列しております。

今、見てください。東京一極集中してきました。それで、今度は新型コロナウイルスが蔓延し、本当に東京が大変なことになっていきますね。人口が東京にそんなに集まらず、もっと地方に行っていれば、これほどひどくならなかったかもしれないという考えもあるわけですね。経済と感染症のパンデミックと、また違うところがあるから、仕方ないのかもしれないけれども、しかし地方を活性化しないと日本は駄目だというのは、今でも私は思っています。


公益社団法人
山梨科学アカデミー事業内容

- 1) 科学・技術に関わる情報交換
- 2) 優れた研究者の顕彰
・山梨科学アカデミー賞、奨励賞
- 3) 人材育成事業
・児童・生徒科学賞
・未来の科学者訪問セミナー
- 4) 各種講演会開催
- 5) その他

37

山梨科学アカデミー会報

第16号

36

36、37 それから、山梨県というのは、東京都と隣接していながら、過疎化が進んでいるんですね。これではいけない。しかもこれは私、山梨の出身なものですから、山梨を何とかしなきゃいかんということで始めたのが、この山梨科学アカデミーという県下の科学者の交流の場の設立でありました。私が発起人になって、一九九五年から始めていますから、もう二五年以上たつわけですけども、ここで何をやっているかと言いますと、科学技術に関わる情報を交換するとか、優れた研究者の研

**芸術は人の魂を救い
生きる力を与えるものだ**

ヴィクトール・フランクル博士
「夜と霧」著者
(ナチ収容所・アウシュビッツ
から奇跡の生還を果たした)

35

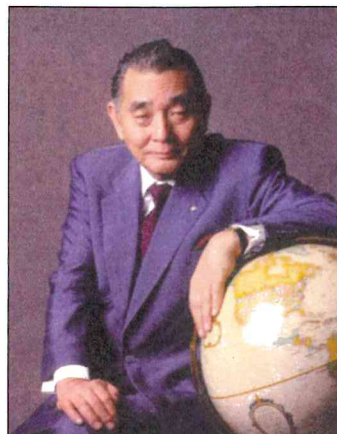
35 なぜこんなことをやったかというところ、これはヴィクトール・フランクルという、皆さんご存じだと思いますけれども、『夜と霧』という本を書いた方ですけど、ナチの話で有名なアウシュビッツの収容所に押し込まれて、そして奇跡的に助かった医師です。その後、この本を書いたり、講演活動もしています。その中に「芸術は人の魂を救い 生きる力を与えるものだ」という言葉があります。こういうことがあって、病院へ来ているいる悩むこともあるでしょうけれども、絵を見て元氣を出してほしいと考えました。実際そういう逸話もあります。何件か絵を見て元氣になったと喜んでる患者さんの話もあります。



34 女子美術大学によるヒーリングアート

クチンの特許料が北里研究所に入って、研究所が新しい事業もやらなければいけないだろうということで考えたのが、病院の設立だったんです。そのときに調べました。日本中の地域を調べて、結果分かったことは、埼玉県が一番人口当たりのベッド数が少ない県だった。そこで、じゃあそこに病院をつくってベッドを増やして、そして地域の医療に貢献してやろうということに計画して作ったのがこの病院です。

32、33、34 四四〇床の病院です。病院の中を見るとこんな、ピアノもあつたりして、ここで音楽コンサートもできるようになっていますし、廊下が最初からこういうふうには絵が飾れるようになっていています。そして、女子美の学生達と一緒にあって、これは小児病棟ですけども、壁面にこういう子どもが喜ぶような絵を飾ってやるとかという、こういう活動をしている病院です。



41 亀高素吉
元神戸製鋼所会長

話題

1. 私の研究と社会貢献
2. 畏敬する先輩たち
3. 私の日常
結語

40

40 さて、話がまた変わります。私はいろいろ研究の分野においても、それからその他一般の社会活動にしても、実に恵まれている人間だと思っています。いろいろな先輩に会い、いろいろな同僚に会い、そういう人たちから応援をいただいたり、あるいは感化を受けて、今日の私があるというふうに思っています。そこで、今日は、大勢挙げるわけにはいきませんが、三人だけ挙げて、そういったお三方のこの生きざまというかをご紹介させていただきます。というふうに思っています。

41 まずは、亀高素吉さん。神戸製鋼所の会長まで務めた。神戸製鋼って有名でしょう。その会社の会長までやった方です。この会社は、石油危機と、それから例の阪神大震災で壊滅的なダメージを受けるわけですね。それを立て直します。そして一方、この平尾誠二というラグビーの名手を招いて、何と七年間ラグビー日本一を勝ち取ったということ、皆さんの記憶に残っている方です。

究業績を顕彰してやろう、山梨科学アカデミー賞とか奨励賞を出しています。それから人材育成。児童・生徒科学賞を出して奨励したり、未来の科学者訪問セミナーと名付けた授業も行っております。特にこれが特徴的でありまして、このアカデミーの会員というのは大学の教授、あるいは県内の研究所の所長をやった人とか、そういう人たちの集まりで、一三〇人ぐらいがおります。そういう先生方に、小学校、中学、高校へ行つて、そして自分の研究領域を非常に分かりやすく説明する。あるいは実験して見せてあげるということをやっています。これは県の教育委員会と一緒にやって行っています。これが非常に好評で、その後子どもたちの感想文を読んでみますと、実に生き生きしていて、「ああ、これはいいことをやれたな」と思います。そんな活動もしています。

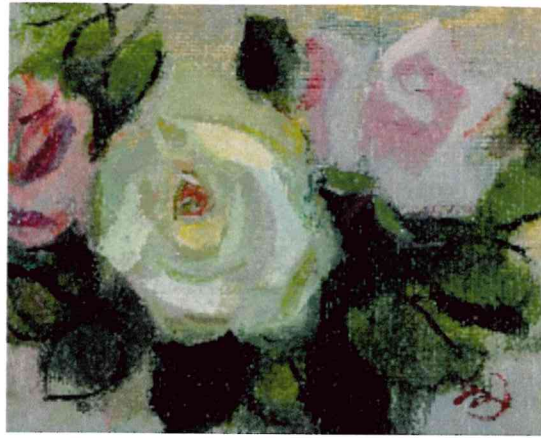


38

武田乃郷 白山温泉 (山梨県韮崎市)



39



44 亀高文子「ばら」



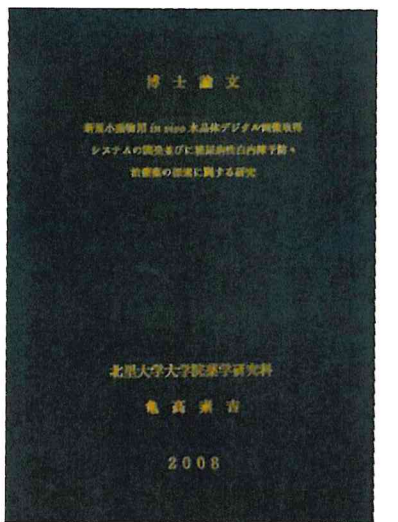
43 亀高文子 (1888~1977)
1907(明治 40) 女子美術
朱葉会創立会員 (1918)
兵庫県文化賞 (1962)

で特色を出そうとして、日本に唯一の美術館なんです。

43 そこに入れる絵は私が自分で選んでいくんですけれども、亀高文子、この方の絵がどうしても手に入らないんです。あるときに素吉さんが見えたから、「亀高さん、実は私はこういうわけで、この亀高文子という方の絵を探しているんだけど、あなたは亀高という方には何かご縁がありませんか」と言ったら、「俺のおふくろだ」と。これで、じゃあそういうわけで絵を集めている話をする、「大丈夫、任せておいて」と言って、それで調べてくれました。けれども、なかなか見つからなかった。駄目だということを言ってきたから、「そんなこと言わないで。どこか押し入れか何かに一点ぐらいあるでしょう」というような話をしました。そうしたら、本当に押し入れからこの絵が出てきたのです。

44 この亀高文子という人はどういう人かというのと、この朱葉会という、与謝野晶子などと一緒に絵を描く女性達の集まりです。これは日本で一番古い、今でもその朱葉会は続いています

42 ところが、それだけじゃなくて、私がここで取り上げるのは、その後のことなんです。退社してから、会長を辞めてから、北里大学の薬学部で聴講生でまず来るんですね。そして、その後いろいろ勉強して、十年後に薬学博士号を取得しました。これは大変なことです。ギネスブックのもので。八二歳のときに薬学博士号を受けたわけです。この方は、私よりは数年先輩ですけれども、かわいがってくれたとか親しくしてくれまして、来るとよく私が北里研究所の所長をやっている頃、私の部屋へワインのいいものが手に入ったと言って持ってきてくれたり、神戸からお土産を持ってきてくれたりしながら、よもやま話をしておりました。まず、どういう研究をこの人がやったかという、白内障の薬を開発しようということ。一方においてあった。もう一つのほうは、白内障のこの薬を開発するのに、小動物を使って白内障に効くか効かないかを調べるには、小さな実験動物の水晶体を調べる、これは大変なんです。今までいい装置がなくて、その装置を開発し、それで目の中をよく見られるような装置になったということです。その両方まとめた論文で学位を取得したんです。そういう素吉さんが私のところへ来られた。先ほどの葦崎大村美術館は女流画家の常設展



42 亀高素吉 北里大学薬学博士学位論文

作家

片岡球子
大久保節子
三岸倉木和俊
丸莊司福文
堀多田美
月館いぬ
佐野野



女子美術大学創立100周年記念画集『徳の華』

題字: 理事長大村 智

45

けれども、この創立会員になった人です。高村光太郎の『智恵子抄』の智恵子さんなんかとも一緒に絵を勉強したなんていう話も残っています。この亀高文子さんの絵が欲しかったのです。そして押し入れから出てきた絵がこれだったんですね。今は葦崎大村美術館に收藏して、時々展示しております。

45 それから次は、私は女子美術大学の理事長を十四年余りやったことがありますけれども、就任してまもなく女子美創立一〇〇周年を迎えることになりました。その創立一〇〇周年の事業を乗り切るようにということで、理事長を仰せつかったんですが、そこで考えたのは大きな美術館をつくってやろうということです。それには寄付を集めて、そしてその寄付をもって美術館をつくろうということになりました。考えたことは、この十億円を集めるにはかなりの方から集めなければならぬし、企業の応援もいただかなきゃいけない。女子美として、何

か女子美らしい返礼ができないか、そこで思い付いたのが、この『徳の華』というリトグラフ集の作成です。そのリトグラフの中に一〇名の作家の名前が並んでおりますが、後になって、ちょうど一〇〇周年の頃はこういう画家たちが活躍していたんだというふうなことも言えるじゃないかということになりました。そうしたら名前を見て、この片岡さんは、これは学長が話をすれば何とかなるだろうと。あと堀文子先生は、これはなかなか「うん」と言ってくれないな、協力をもらうのは大変だなというような話になりました。それで、私が堀先生を担任してお願いすることにしました。

46 これは、まず片岡先生の話です。これは先生が九五歳のときです。横浜美術館で展覧会があったときに、ここで片岡先生の素晴らしいスピーチを、今でも覚えております。こんな話をするんです。「私は山の絵を描いていたけれども、やがて富士山にかまいった」と。それで、その富士山を描いているけれども、富士山の奥深さ、気高さをどうしても表せない。いずれ富士山に褒められるような絵を描いてみたいなんてあ



46

前列 講演者、片岡球子
後列 左から林敬二、入江観、小松弘光、佐野ぬい



53 堀文子 (北里研究所にて)



54 堀文子「極微の宇宙」



55 堀文子「終り」

のぞかせてくれということで、顕微鏡をのぞかれて、こういう顕微鏡下の世界を描くわけ。こんな画家さんいませんよね。顕微鏡で絵を描いたなんて聞いたことないですね。

55 それから、これが私は堀先生の最高の傑作だと思っておりますけれども、『終り』というタイトルが付いていました。この絵を見たとき、これはヒマワリが十分にもう実を付けて、そしていよいよ終わりになるという、その姿を描いていますけれど、何か人がとぼとぼと歩いているようにも見えたのです。非常に精神性の高い絵であるということが、お分かりいただけると思います。



52 堀文子「幻の花 ブルーポピー」



51 堀文子 講演者と初対面

51 さて、もう一つあります。これは堀文子先生です。堀文子先生はもう難しいからOKなんて言わないよと、みんな言うわけです。じゃあ私がということ、これは吉井長三という親しくしていた画商にお願いして、このお酒の席を設けてもらったんです。これを見ると、どちらが説得されているのか、しているのか分からないような写真になっちゃっていますけれども、これ以来、堀文子先生と私は親交を深めることを長く続けることもできたということでもあります。

52 堀先生は好奇心旺盛です。ヒマラヤにブルーポピーという花があると、それを見たい、描きたい。何とロバに乗って、ヒマラヤまで行くんですね。そして、がれきの中にこの花を発見する。描き上げる。そうすると、みんな花のほうを見ると思いますが、先生はむしろこの葉っぱにとげとげがあるのに非常に感動したと言っています。孤高な、誰も寄せ付けないような花だったという話をしていました。

53、54 それで、この私どもの研究所にも来られて、顕微鏡を

56、57 さて、こうやって議論しながら、よく堀先生が口癖のように言われたことは、人間は傲慢ごうまんだと。人間は傲慢過ぎる。虫のことを虫けらと言う。草のことを雑草と言う。そういう同じ生命体じゃないかということをよく言っていました。本当にそれを実行に移したのが、この木のことです。このホルトの木は大木です。実はこの道を広げるために、この木を切ろうと市はしたのです。それでご自分でその土地を買ってこの木を保護したんです。そしたら、これがしばらくしてから今度は樹勢が弱ってきたから、実生で今は木を育てているという話を聞いたので、早速女子美に寄付してください

いとお願ひして、一本頂きました。

58 これがそのホルトの木で、これは植樹祭のときの写真ですけれどもね。こういうふうな話もあります。



58 ホルトの木
女子美術大学
相模原キャンパス植樹祭にて



57 ホルトの木の太木と堀文子



56 中央右 堀文子 (1918~2019)
1940年女子美卒

59、60 さて、いよいよ三つ目の話になりますけれども、日頃私の生活を聞いたがる方が多く、どういう生活をしていきますかとよく聞かれるんですが、そこで少しそれをご披露しようというわけなんですけれども。私の生命観のところは、寿命というのは天から授かったものなんだと。ところが、健康寿命というのは本人次第で長くもすることができるとというのが私の生命観なんです。

61 じゃあ、どういう生活かと言いますと、一応心掛けていることは、睡眠、食事、運動、読書、心のケア、祈り。これが一つ欠けてもよくないです。例えば、ちょっと運動不足だなというと、あえて今日は運動だと、こうやるわけですけれども。特に読書は、これは若い人たちには、特にこの読書をお勧めしたいと思います。読書というのは、想像力を高めるのに非常に重要なことなんです。最近若い人たちが書物から離れてきているというふうな話を聞いて、ちよつと心配なことだと私は思っています。

話題

1. 私の研究と社会貢献
2. 畏敬する先輩たち
3. 私の日常
結語

59

生命観

寿命は
天からの授かり物

健康寿命は
本人次第

哲史

60

日常生活の心得

- 一、睡眠
- 一、食事
- 一、運動
- 一、読書
- 一、心のケア
- 一、祈り

哲史

61

健康寿命は日々の丹精にあり

- 一、家族の一員としての役割を果たす。
- 二、新しい価値観の下、良い人生を送る。
- 三、高齢化社会の一員として地域社会の発展に貢献する。
- 四、「生き生き」。

哲史

62

62 それで、健康寿命を長くすることで、どういふことができ

るかということですが、まず家族の一員として役割を果たすことができます。それから、今まで過して来た企業や団体での価値観と、それから今度は年を取っていいよ退職してからの価値観だと、当然変えなきゃ駄目だと思います。変えた上で、新しい価値観の下に自分が行動するということが大事じゃないかと思ひます。それから、高齢化社会の一員です。高齢化社会と、前は何か別の社会のように思つたかもしれないけれども、自分がその高齢化社会の中に入っているわけですから、その中でやっぱり地域社会に貢献するという心掛けが必要じゃないかと思ひます。そして、何より健康寿命を長くすることによって、生き切ることができる。ただ生きるじゃなくて、生き切ることができるといふことですね。

そして、こういつたことをやるには、やはり三日坊主じゃ駄目なんです。一日〜二日運動したからもういいと思つて止めるのではなく、毎日までいかないまでも、絶えず運動するという



内藤多仲 (1886~1970) 山梨県出身 日本学士院会員 文化功労者

積み重ね

積み重ねても
また積みかさね

63



内藤多仲の石碑

63

ことが大事です。その大事さを表わす言葉に内藤多仲先生のことをちよつと話したいと思ひます。

63 日本学士院の会員で、文化功労者にも顕彰された方です。私の生まれた町の隣町に生まれた方ですけども、名古屋のテレビ塔を皆さんご存じだと思います。東京タワーもご存じですね。それから、あとは大阪の人だったら通天閣。こういったものを設計して造つた方です。この人が有名になつたのは、関東大震災という大きな地震があつたときに、ほとんどの建物も壊滅的な被害を受けたのに、内藤多仲先生が設計して造つた建物はほとんど無傷で残つたということで世界的に有名になつたのです。それで、この先生は塔博士とか、あるいは耐震建築の父とも呼ばれるようになりました。

この先生が、出身小学校の庭の片隅に建てたのがこの石碑なんですけれども、これではちよつと読みにくいから、こちらに書き出してみました。「積み重ね、積み重ねても、また積みかさね」。これは、まさに努力することの大切さを子どもたちに訴

えています。努力ということはこういうことだとよく伝える言葉だと思っております。

64 それで、私が韭崎に帰りますと、若い人たちが寄ってくる。そういう人たちの話を聞くと、一生懸命で地域振興、地域のためにみんな頑張っているんですね。そういう人が一人、二人と寄ってくるうちに、大勢集まるようになったのです。あるときに、この会の名前を付けてくれということになった。それで私が名前を付けてあげました。これが「積み重ねの会」と、こう言うんです。去年はコロナ感染症の蔓延でできなかったけれども、何カ月かごとに、集



64

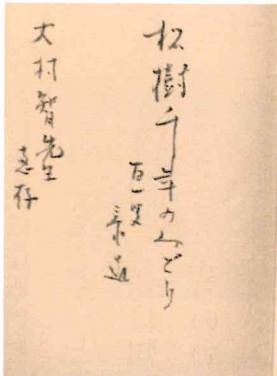
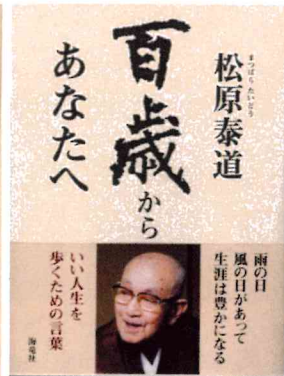
「積み重ねの会」(山梨県韭崎市)懇親会

まっては情報交換する。あるいは、今日一緒にこれをやろうよとか、みんなで議論する。そうやって、この人たちが本当に韭崎を盛り上げています。そういう話はいっぱいあります。いい例がね。だから、そういうことで、この写真の雰囲気のように私がいろいろ話したり、みんなから話をしたり聞いたりしてあげるわけですね。

65 それで、心のケアの話ですけれども、先ほどから美術の話をしていますけれども、私は趣味としては美術と、それからスポーツ。特にゴルフなんかが好きなんです。



65 野田九浦「芭蕉」



66

この絵は、私が助教授の頃、北里大学薬学部の助教授のまだ部屋を持ったばかりの頃ですよ。教授は絵が好きでな方でしたので、そこへ画商が、よくいろんな絵を持ってきました。そのついでに、私のところへも持ってきて広げて見せてくれるんです。何回も来るから一点ぐらい買わなきゃなと思って、そして選んだ絵がこの絵です。これを月賦で買ったんです。こんな絵を月賦で買うなんて人いなかったと思うんですけれども、私は月賦で手に入れました。ところが、この絵は、後になって「いいものを、あどときに買っておいたな」と思うのは、普段いろいろ疲れてくることがあります。何かやるとごたごたあったり、議論もあつたり。疲れてくると、もうしようがないなと思って、家へ帰り、この絵をさーっと広げて、この前に座って座禅を組むような形でもって見ていますと、この芭蕉の姿と同じような気持ちで、自分が休まってくるわけです。

66 そして、先ほどの松原泰道先生からまた本を頂きました。松原泰道、『百歳からあなたへ』『雨の日 風の日があつて 生

涯は豊かになる」と、帯にこういうことを書いてあるわけです。それで、先生がまた私に「松樹千年のみどり」と書いてこの本を下さいました。そして、私はこれを頂いたときに松樹千年翠という言葉は知っていましたけれども、禪宗の高名な僧侶から頂いた言葉として、単なる何となく響きのいい言葉であるな、めでたい言葉であるなという感覚はあるけれども、それ以外の何かがこの中に含まれているはずだと思われました。そこで

本で調べたけれども、なかなかこの出典が出てきません。

松樹千年のみどり

松樹千年翠、不入時人意
「禪語字集」

大自然は常に法を説いてくれているが、人々が聞く耳を持たなければ何にもならない。

解説
中村 信幸
元駒沢大学講師
元駒沢大学講師

67

67 そこで、私の懇意にしているときの^{ひとい}市松雲寺の松雲寺の住職さんで中村信幸さんという、外語大を出て、お寺の住職をされている方です。杏林大学の教授などを務めておりました、そこへ行って、実はこの松樹千年翠はどこから出た言葉かを知りたいんです。そして、本当の意味は何か別にあるんじゃないかと私は思うんですけども、どうでしょうか。ちょっと待って、調べてみますと言つて、二週間か三週間後調べてくださったんです。そうしたら、何とちゃんとこの『禪語字集』の中に「松樹千年翠、ときの^{ひとい}不入時人意」と、こういう言葉がある。だから、こち

らは（後の方は）ぬかしちゃって、こちらだけ（前の方だけ）をよく使っているんだと言ふんです。実は肝心なことはここに（後の方に）あるんだと。これを訳すと、大自然は常に自然の摂理をといてくれているが、人々が聞く耳を持たなければ、何にもならない。こういうことの意味だよということをお教えました。それで分かりました。さすが、やっぱり泰道先生は、私にこれを教えてくれたんだとうれしかったです。

68 それで、本当に自然から学んだことを一つここでご披露しますけれども、皆さんはヒイラギの葉っぱは見たことではないですか。普通の人はヒイラギといったら、左をイメージすると思います。これは若い木などは、この葉っぱなんです。ところが、私がこの富士川の町にある、



ヒイラギ
Osmanthus ilicifolus Mouillefert
(樹齢：推定400年)
妙諸寺、山梨県富士川町

ヒイラギの教え：人間も加齢と共に丸くなること。

68

山梨県の妙諸寺の僧侶さんが、何か私に親しくしてくれ美術館なんかにもいろんな花や草を持ってきて植えてくださったりしているのですけれども、この方の寺の境内に樹齢四〇〇年のヒイラギの樹がありますが、ここに今度は新しい名古屋に直行するリニア新幹線の通

路にぶつかるらしいんです。そこで、この木を切り倒すということです。それで、もったいないという話を私にするから、どんな木か見に行ったら、それは立派な樹齢四〇〇年の木です。

そこで発見したことは、この上のほうの木は葉の形が丸いんですよ。そしてこの根元から新しく出てきた枝からは本当の私どもがイメージしているヒイラギの葉っぱなんです。これは私に何を教えてくれたかという、ヒイラギの教え。「人間も加齢とともに丸くなること」、こういうふうには私は教わったと思っています。そういうこともありました。

69 山田方谷という、これは、歴史の勉強をしている方は、ほとんどご存じの方だと思いますけれども、備中松山藩の家老です。家老というのは大変なものです、実はお百姓の出身なんです。それが家老までいって。しかも、その藩主の板倉勝静は、中央の、要するに江戸の幕府へ行って、老中にまでなるわけです。その人の知恵袋と言われている方なんです。ものすごい貧乏で、とにかく貧乏で借金ばかりで大変だった藩の借金を切って、

山田方谷の言葉
人は夢を持つことが肝腎なり。
されども夢を実現せんとすれば、まず自ら努力することを忘るべからず。
唯、必ず我が夢は叶うと信じるのみ。

野島 透著
小説「山田方谷の夢」

69

朝は希望に起き

昼は努力に生き

夜は感謝に眠る

九品仏「浄心寺」

70

ももとの借金の額の、倍ぐらいの資産を残したということでも有名な方です。

この人のことを、この『山田方谷の夢』という本を、野島透さんが書かれています。この方は山田家の六代目の当主なんですけれども、折があったらこの人の本を読んでみるといいと思います。私も講演を頼まれました、ここへ行きました。方谷は本当に寒村の生まれです。そういう人が世の中を動かすような仕事をされたんだなと、非常に感無量でした。「人は夢を持つことが肝要なり。されども夢を実現せんとすれば、まず自ら努力すること

を忘るべからず。唯、必ず我が夢は叶うと信じるのみ」、こういうことを言っております。70 そして、「朝は希望に起き 昼は努力に生き 夜は感謝に眠る」という言葉を浄真寺というお寺の住職さんが書かれているのを寺の入り口で見つけました。東京の方だったらご存じだと思いますけれども、世田谷に九品仏というお寺があります、本当の名前は浄真寺といいます。これを見たときはいい言葉だなと。こういう生活してみたいなと思いが



71

中央 書「生きる」(松原泰道 龍源寺住職、南無の会会長)
右 書「不動心」(清水公照 東大寺別当)

ら、これをメモして、皆さんにもご披露しているということでもあります。

71 さて、これが最後のスライドですけれども、我が家には神仏習合で神棚と、それから仏壇がある部屋がありますが、こちらに神棚が見えます。この壁の左に「夢」という額があります。これは観光に行った所のお土産店にいい書があったから、これを買って来たんです。そして、中央の額には「生きる」という言葉が書いてあります。これは先ほどの泰道先生が私に直筆の書を書かれたんです。それから、「不動心」という書は、これは清水公照さん、東大寺の別当を務めた方の書なんです。この三つを飾っては、いつも「夢を持って不動心で生きる」と自分に言い聞かせながら生活をしているということでもあります。

以上、話を終えたいと思います。ご清聴いただきありがとうございます。

- 25 リンパ系フィラリア症 (Lymphatic filariasis)
- 26 ノーベル生理学・医学賞授賞式 (2015)
- 27 ストロメクトール
- 28 疥癬 (Scabies)
- 29 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防および治療薬としてのイベルメクチン (FLCCC 発信)
- 30 日本の未来は人口の一極集中を避け、地方を活性化できるか否かにかかる
- 31 北里大学メディカルセンター (埼玉県北本市)
- 32 北里大学メディカルセンター エントランスホール
- 33 北里大学メディカルセンター ヒーリングアート
- 34 女子美術大学による北里大学メディカルセンターヒーリングアート (2004)
- 35 「芸術は人の魂を救い 生きる力を与えるものだ」
ヴィクトール・フランクル博士
- 36 山梨科学アカデミー会報
- 37 公益社団法人 山梨科学アカデミー事業内容
- 38 武田乃郷 白山温泉 (山梨県韮崎市)
- 39 韮崎大村美術館
- 40 2. 畏敬する先輩たち
- 41 亀高素吉 (1926~2012) 元神戸製鋼所会長
石油危機および阪神大震災による壊滅的被災から神戸製鋼所を救い、平尾誠二選手を招聘して7年間ラグビー日本一を勝ち取る。
退社後、10年間北里大学薬学部にて学び、研究して82歳で薬学博士号を取得。
- 42 亀高素吉 北里大学薬学博士學位論文
- 43 亀高文子 (1888~1977) 1907年女子美卒、朱葉会創立会員 (1918)、
兵庫県文化賞 (1962)
太平洋画会研究所で埴原久和代・長沼智恵子と共に絵を学んだ。
- 44 亀高文子「ばら」 韮崎大村美術館蔵 (亀高素吉氏寄贈)

スライド一覧

- 1 良き人生は日々の丹精にあり
- 2 松原泰道『人生を豊かに生きる 12章』
東京都港区「龍源寺」住職、前南無の会会長
- 3 1. 私の研究と社会貢献
- 4 北里柴三郎 (1853~1931)
- 5 破傷風の症状
- 6 破傷風菌 (Clostridium tetani)
- 7 主要海外製薬企業パイプライン
- 8 北里柴三郎の学問研究の目的「結核予防協会演説」1917年
- 9 横井小楠 (1809~1869)
- 10 源了圓 日本学士院会員、近代日本思想史、横井小楠の研究
- 11 横井実学党の系譜
- 12 「金を残す者は下 仕事を残す者は中 人を残す者が上」
後藤新平 (1857~1929)
- 13 第1回 Kitasato Microbial Chemistry (K.M.C.) Seminar のポスター (1975年)
- 14 KMC セミナー 500回 (1975~2008)
- 15 ソフィア会会員
- 16 「組織にて 研究する者達が成長する時、その組織はさらに多くの成果をあげる。」 哲史
- 17 エバーメクチンの生産菌
- 18 エバーメクチンからイベルメクチンへ
- 19 イベルメクチン (Ivermectin) の概要
- 20 オンコセルカ症の感染者
- 21 オンコセルカ症を引き起こす線虫の幼虫と媒介するブユ
- 22 オンコセルカ症 (Onchocerciasis)
- 23 リンパ系フィラリア症の感染者
- 24 リンパ系フィラリア症を引き起こす線虫と媒介する蚊

- 66 松原泰道『百歳からあなたへ』
- 67 松樹千年のみどり
- 68 ヒイラギ
- 69 山田方谷の言葉
- 70 「朝は希望に起き 昼は努力に生き 夜は感謝に眠る」九品仏「浄心寺」
- 71 中央：書（松原泰道 龍源寺住職、南無の会会長）
右：書（清水公照 東大寺別当）

- 45 女子美術大学創立 100 周年記念画集『徳の華』
題字 女子美術大学名誉理事長 大村智
- 46 展覧会「熱き挑戦 片岡球子の全像展」2000 年 4 月 21 日 横浜美術館にて
- 47 片岡球子「富士」2000 年 蕪崎大村美術館蔵
- 48 片岡球子(1905~2008) 三つの主要テーマの年表
- 49 片岡球子「面構 雪舟」1996 年 (91歳) 日本美術院再興第 81 回展出品
- 50 展覧会「現代日本画の巨星 片岡球子展 100 歳を記念して」
神奈川県立近代美術館 2005 年
片岡球子「烏亭焉馬(右)と二代目団十郎(中)」1994 年 (89 歳)
日本美術院再興第 79 回展出品 蕪崎大村美術館蔵
- 51 堀文子 講演者と初対面(1998)
- 52 堀文子「幻の花 ブルーポピー」蕪崎大村美術館蔵
- 53 堀文子(北里研究所にて)
- 54 堀文子「極微の宇宙」
- 55 堀文子「終り」1992 年
- 56 堀文子(1918~2019) 1940 年女子美卒
- 57 ホルトの木の大木と堀文子
- 58 ホルトの木 女子美術大学相模原キャンパス
2014 年 4 月 24 日 植樹祭にて
- 59 3. 私の日常
- 60 「生命観 寿命は天からの授かり物 健康寿命は本人次第」哲史
- 61 日常生活の心得
- 62 健康寿命は日々の丹精にあり
- 63 内藤多仲(1886~1970) 山梨県出身、日本学士院会員、文化功労者
名古屋テレビ塔、通天閣、東京タワーを設計。「塔博士」、「耐震建築の父」
とも呼ばれた。
内藤多仲の石碑「積み重ね つみ重ねても またつみかさね」
- 64 「積み重ねの会」(山梨県蕪崎市)懇親会
- 65 野田九浦「芭蕉」帝国芸術院会員 大村コレクション

大村智講演録

良き人生は日々の丹精にあり

(致知出版社新春講演録) (非売品)

発行日 令和3(2021)年9月1日
発行 北里大学大村智記念研究所
東京都港区白金5-9-1
制作・印刷 株式会社パワープランナー

大村智講演録

良き人生は
日々の丹精にあり

講演日 二〇二二（令和三）年一月二十三日（土）